

林文子先生を偲んで

暗室の思い出

伊藤 忠雄

今は亡き、林文子先生との出会いは、1947年頃だと思います。その頃の先生は、美少女と言ふ感じで、例えて若鮎の様だと言ったおぼえがありました。女子医専を卒業され、岐阜大学の放射線科に入席された頃、放射線科には、玉木教授が居られました。先生の教室で学位の勉強、医学の研究に、熱心に勉強されていました。その頃はコピーもなく、現像薬も不足の頃でした。研究用に、書物の複写や、X線写真のスライド作りなど暗室の仕事が多く、先生から暗室仕事をよく頼まれました。ある時は、夜おそくなり名古屋行きの終電が無くなり、先生に私宅で泊まっていただく日もありました。それから何年か過ぎ、名古屋大学医療技術短期大学部の暗室で又お目にかかる様になりました。この事もきのふの様な気が致します。

先生の御冥福をお祈りして筆を止めます。